



退任教授「在任中の思い出」・・・ 2
留学私話・・・ 3
医9期生卒後20年同期会・・・ 4
医19期生卒後10年同期会・・・ 5

看3期生卒後10年同期会・・・ 6
看8期生卒後5年同期会・・・ 7
医師確保支援センター／滋賀ドクターバンク・・・ 8
看護学科交流懇談会・・・ 9
LITTLE WINDOW・・・ 10

「湖医会」が30周年を迎えます!!

2011年4月に発足30周年を迎えるにあたり、
Home Coming Day(仮称)などの記念行事を計画中です。
同窓生みなさまからの、ご意見・ご提案をお待ちしております。
詳しくは、<http://www.koikai.org>をご覧ください。

「西医体・西コメ等」応援ありがとうございます

9名の会員から、87,000円の寄附が集まりました。(6/25現在)
ありがとうございました。今後もみなさまの、温かい応援よろしくお願ひします。
各クラブの競技日程は10ページをご参照ください。
競技の結果は、<http://www.koikai.org> に掲載します。



メールアドレスをお知らせください

会員への情報提供は、メールで連絡する機会が多くなっています。
まだ「湖医会」にメールアドレスを登録されていない方は
koikai@koikai.orgまでご連絡ください。

在任中の思い出

大学創設から35年をともにして

分子神経科学研究センター 前教授

木村 宏



ふり返ってみれば、1965年の大学入学から44年間を単科大学で過ごしたことになる。72年京都府立医大を卒業、臨床研修はスキップして基礎医学（薬理学）の助手となった。医師免許の交付申請もせず研究者を目指したが、教授に叱られ証書を手にしたのは夏だった。

3年ほど神経薬理（GABA）を専攻したものの、学生時代から好きだった顕微鏡の世界に移ることにした。恩師から阪大・解剖学の清水教授を紹介され、師事を乞うた。丁度その頃、創設準備期にあった本学の教授として清水門下の前田先生が内定、ついで助手として内示を受けたのは一期生入学の半年前（開学は74年10月1日、独語の一学科のみ）だった。先陣をきっての内定は、篤志献体のしゃくなげ会を立ち上げるため、比叡山など教授のかばん持ちとして歩き回った。

75年4月に新入生を守山市仮校舎で迎え、ラグビー部とボート部、さらには部員不足を補うためサッカー部も立ち上げ、各部員の交流（助っ人）で体育会活動の体裁を保つことができた。近年これら体育部の活躍には隔世の感があり、ラグビー部の無

敵無敗の歴戦ぶりは誇らしい。

第一解剖では実験技術の職人ワザを磨くことに没頭し、論文書きや留学話には興味がなかった。GABAから始まった神経伝達物質への興味が、アミンなどへと広がった78年、カナダからポスドクのオファーがあり、2年間アセチルコリン研究に取り組んだ。帰学後、第二解剖に移り神経解剖を担当した。

89年分子神経生物学研究センターが国立大で初の研究専念タイプとして設立され、再び学内引越をした。本学を「小さな大学」と人は云うが、コリン神経研究というクロスワードパズルのヒトコマを埋めることができた。研究志向を目指す大学理念に沿った活動の一例となれば幸いである。医学・医療を含めた幅広い研究の進展を願いつつ、次世代の学友に本学発展の夢を託したい。



特別会員からの



おたより

神戸市看護大学 前教授 森 美春

滋賀医大の卒業生さんとは縁が深く、2009年4月には、ゼミ卒生が助手として森が勤務していた京都の前任大学に着任してくれ、共に看護教育に当たりました。また本年は卒業生の結婚式に2月、4月と招かれています。また学部ゼミで担当した卒業生が、臨床を経験して再び母校の滋賀医大医学部看護学科の大学院に学び看護修士を手に入れ、この春終了となります。これも嬉しいことです。このようにゼミの卒業生とは卒業後も交流を深めております。滋賀医大の卒業生さんとお会いするたびに、どの方もじっくりと大きく確実に育っておられることを実感しております。

今後も卒業生さんの活躍と貴学のますますの発展をお祈りいたします。

シアトル留学記



自宅窓から望む
マウントレーニエとレイクユニオン

Caritas Carney Hospital Internal Medicine

酒井 美和
(医19期生)



フレッドハッチソンがん研究所の日本人パーティ
筆者は左から3番目

皆さん、こんにちは。医学科 19 期生の酒井美和です。先日、卒後 10 年同期会の招待状を頂き、時の流れの早さに驚いています。現在、私はシアトルに臨床研究留学しておりまして残念ながら同期会には参加できませんでした。この度、留学体験記の原稿を依頼されましたので簡単ですが私の経験と雑感をここに記したいと思います。

私は大学卒業後、東京都立駒込病院で内科研修を終え、がん治療への興味からそのまま血液内科のフェローシップに進み同病院の血液内科スタッフとなりました。この科では造血幹細胞移植（以下、移植）、特に非血縁者間の移植を盛んに行っていたため日々職人のように移植治療に明け暮れる生活を送っておりました。幸い同科では症例数が非常に多かったため標準的な移植療法はマスターしたものの、稀な合併症の管理については経験が浅く、また標準治療の確立していない慢性 GVHD の治療方法などを学ぶため、シアトルにある Fred Hutchinson Cancer Research Center (FHCRC) に留学したのが 3 年前になります。東京では多施設臨床研究に参加したり移植合併症の疫学的研究も行っていたのですが、診療の合間に臨床統計や論文解釈を勉強するのは難しかったので、この臨床疫学的研究を掘り下げて学ぶことも留学のもうひとつの目的としました。

FHCRC の造血幹細胞移植治療は、骨髄移植を確立しその功績でノーベル賞を受賞した E. Donnall Thomas 博士に端を発します。移植症例数が世界トップレベルであり、常に質の高い臨床疫学的研究結果を発表し造血幹細胞移植治療をリードしています。私は visiting physician かつ visiting researcher として University of Washington と Seattle Cancer Care Alliance の病棟と外来で診療チームに参加し、FHCRC の臨床研究部門で疫学的研究を行いました。ワシントン州ではボスの采配により州の医師免許を短期間保持して診療することができます。私は移植のコンサルテーションチーム 4 つ (Infectious Disease, Pulmonary/Critical Care, GI, Long Term Follow Up) を 1 ヶ月毎にローテーションし、急性期の合併症の治療方法と外来での慢性 GVHD 管理の方法を学びました。さすがにアメリカの先端治療の粋を集めた移植システムには目を見張るものがあり、移植後の合併症に対して各専門家が移植治療を熟知した上で治療方針を議論し決定するという、医療の高度専門化がもたらす恩恵を間近で感じることができました。日本の移植はまだ 20 数年と日が浅いため、まだまだ血液内科医の独断で治療方針を決定することが多々あります。消化器の合併症、呼吸器の合併症など次々に現れる全身の合併症に対して主治医の血液内科医が大方の治療方針を決定していくという荒業をこなしているのが現状です。疫学的臨床研究にしても然り、FHCRC では臨床統計の専門家を必ずブ

ロジェクトチームに迎えて誤りのない収集データを正確に解析し、多面的に議論をした上で結果を適切にプレゼンテーションするという過程に非常に感銘を受けました。臨床医が片手間に SPSS を使って素人の解析データを論文化するのは大違いです。もちろん研究目的によっては個人で発表するデータも良質になり得ますが、何千人もの患者データを元にプロの統計家が出した解析結果を複数の臨床医が議論して結論を出すというダイナミックかつ実質的な研究過程を目の当たりにし、東京での経験を多に反省しました。

以上が世に言うアメリカ医療の「光」の部分の体験です。私は移植という先端医療を学ぶため先端施設で最高峰の医療レベルを見たわけですが、今年からボストンで一般内科研修医として働くことになりました。こちらでアメリカ人の夫と結婚したため、「visiting」physician ではなくアメリカで正規の医師として働くことにしたのです。アメリカの医療は保険未加入者の診療の限界、訴訟対策のための不要な検査漬け、病院の生き残りのための儲け優先の医療など、標準治療からかけ離れた医療が行われていることも指摘されています。民間の病院で働き、アメリカ医療の限界を日々感じて今度は日本の医療が恋しくなるかもしれません。それまでは頑張るだけ頑張り、アメリカの診療にどっぷり浸かりたいと思います。

次の10年も元気で、活躍してください



1・2学年担任 名誉教授

土井田 幸郎

第9期生の卒後20周年の同期会に招いてもらい出席しました。ほとんどの参加者が26～27年前の面影を残していて、すぐに誰かが判りましたが、何人かはすっかり貫禄がついていて、声を掛けられても誰かすぐに判りませんでした。

当日出席した教官は、私1人だけでしたので、最初に乾杯の音頭取りの挨拶をといわれながら、少し長めの近況報告をさせてもらいました。その後、出席した皆さんの元気な姿を拝見しながら、近況やいろいろの思いを聞かせてもらいました。

それだけで、予定された時間がなくなってしまい、1人1人に声を掛ける時がなくなり何とも残念でした。でも皆医師としてだけでなく、人間としての幅も広げて、立派に活躍しておられることが判ったのが何より嬉しいことでした。

私は、同期会の2週間ほど前から、これまで経験したことのない肩痛で、「40肩かな、それならこの先10年くらいは大丈夫かな」と冗談交じりに挨拶し、無常の風がいつ吹くか知らないわけでもないのに、30年目の同期会にも呼んで欲しいなどと頼んだりしました。

自分の教え子に招いてもらい、自分を超えて育っていく教え子たち皆さんの姿が見られる。その子達に囲まれ楽しい時間が持てる。教師冥利これに尽きる物は無いと感謝しながら、同期会を楽しませてもらいました。有難うございました。

9期生同期会に参加して・・・ 卒後20年で思うこと

大道医院 院長

大道 信之



10年目の時には参加できなかったため、一度に大勢の同期生に会うのは20年ぶりとなった。乾杯時の土井田幸郎先生のお声は、教養課程で講義されていた当時とまったく変わらなかった。我々の中には、髪の毛のボリューム(私も言うに及ばず)、胴回りなどが20年前と多少変化している同期生もちらほらいた。なかには大きく変貌されており、宴半ばの近況報告のスピーチでやっと名前が判明した方もいた。久しぶりの再会の場での話題は、女性陣は子供の受験のこと。そして男性陣は仕事のこと。勤務医、開業医とも精神的・肉体的なストレスや苦勞は多そうである。ひとつ気付いたことといえば、我々は普段病気を診る側の存在だと思っていたが、すでに高血圧や糖尿病など生活習慣病を抱えている同期生もいたことだ。アラフィフティの世代ともなると、病気は医者であっても必ずある割合でおこる現象だと改めて納得した。10年後には、また元気で再会できるよう自分も生活スタイルを見直したい。



また、10年後もお会いしましょう!



卒後20年 同期会 医学科 9期生

2010年3月27日(土) / 琵琶湖ホテル



卒後20年同期会に参加して

赤穂市民病院 外科 高原 秀典

3月末に1989年卒の同期会が琵琶湖ホテルで行われた。私は播州赤穂から一家4人で参加した。予定より2時間は早く着くと思っていたが、春休みシーズンと高速千円の影響(実際は2,450円かかった)で宝塚トンネル付近の渋滞が激しく、1時間遅刻してしまった。同期の半分以上が参加していたが、上座に座っている数人は来賓の偉い先生と思ったが同期であった。久しぶりに会ってみると、白髪、禿、体格が変わった者、変らない者、結婚した者、離婚した者、独身の者、さまざまで近況報告をしあったが、やっぱりみんなふけていた。大学にいる者、病院勤務医、経営者、開業医などいろいろいたが、開業医が約半数であった。今回の診療報酬改定は中医協委員である当院の名誉院長のおかげで病院有利になり開業医にとってはマイナス改定であり、その対策で話が盛り上がっていた。つい先日まで講義をさぼって球拾いしていた仲間が病院経営の話をしていて、その仲間のひとり、毛保君のご冥福を祈り、全員で黙とうした。我々9期生は、8期生よりおとなしいといわれたので私も学生時代にかえって、ばーっとしたかったが、50過ぎだし、家族もいたので翌日のミシガン遊覧船を楽しみにすることとした。この場を借りて、私が勤務している赤穂市民病院を紹介します。滋賀からは新快速播州赤穂行き1本で着きます。病床数420の総合病院で医師は研修医を含めて62名で、滋賀医大卒業生は、内科、外科、呼吸器科、整形外科、心臓血管外科、麻酔科、形成外科で活躍しています。当院を滋賀医大卒業生の力でますます発展させていきたいので、みなさんどんどん赤穂市民病院に勤務していただきたいと思います。



10年後の再会を楽しみに

坂部医院 院長

坂部 秀明

2010年3月27日に琵琶湖ホテルで、9期生の卒後20年同期会が開催されました。土井田先生が出席してくださり、生物学(生命学)ミニレクチャーで会は始まりました。我々9期生はちょうど平成元年卒業ですから、平成の時代と共に医師として20年間の時間を過ごしてきたこととなります(あまりにも時間の流れは速いですね)。

恒例の入学時の写真をバックにしたスピーチ、皆こんな雄弁だったのかと思うほど良くしゃべります。卒後10年の時と違って、医師としての希望やスキルアップの話ばかりではなく、趣味、家庭、地域のことなども話してくれました。そして、成功したこと、失敗したこと、皆、色々なことを乗り越えてそれぞれの分野で活躍しているようです。

会の終わりには悲しい報告もありました。10年後により多くの同期生が再会できるように、土井田先生の仰られた「人間として生命の順番を間違えるなよ」という言葉を大事にして、健康に気をつけながら仕事を頑張りましょう。

最後になりましたが、大変お忙しいにもかかわらず、すばらしい同期会を企画、進行してくださった今井先生、成田先生、野口先生、そして「湖医会」事務局の方々にお礼申し上げます。



懐かしいだけでなく

滋賀医大附属病院 呼吸器外科

北村 将司

ついに自分たちの学年が卒後10年同期会を行うことになりました。全部で何人なのかも忘れましたが、53人もの同窓生が10年ぶりに一堂に会して、とても懐かしい時間を共有できたと思います。あっという間の10年間で、今でも「そんなに時間経ったのかなあ」というのが実感でしたが、卒業してから一度も顔を合わせることもなかった友人でも、みんなまるで昨日卒業したかのようにすぐに話が弾んでいました。あまりに楽しい時間でしたので、思わず、一つの大学にたまたま同時に集まった仲間たちがこんなにたくさんいることや、その母校を通して一つのつながりがあることに感動してしまいました。普段は意識しませんが、同級生として過ごした時間は本当に有意義なものだったと思います。恥ずかしい話ですが、これからもみんな元気で仲良くいれたらと、子供のように感じた楽しい時間でした。時には古い友人と顔を合わせるのも、本当にいいものだと思います。みなさんも機会があれば、是非ともご参加されてみては。



学生時代にタイムスリップ？

滋賀医大附属病院 小児科学講座

松井 克之

「同期会を楽しみにしています」というコメントのついた年賀状を今年は多くいただきました。そのため今年の同期会には大勢集まりそうだという予感がありましたが、本当に例年以上の人数が集まったようです。私は滋賀に残っているのでよく見る顔もありましたが、11年ぶりに見る懐かしい顔もありました。みんなの外観がほとんどかわっていないことには驚きでした。11年って長いようで短いのかもかもしれません。実際も話す内容にお医者さんのものが混ざるようになった以外は年月が経ったのを感じさせませんでした。学生時代に戻ったかのような楽しい一時でした。次の同期会を通常よりも早く5年後に開催しようということになったのも、みんなが同じ気持ちだったからでしょう。今から楽しみです。

最後になりますが、このように充実した同期会になったのも司会進行役の北村君と実行運営していただいた「湖医会」の方々のおかげです。この場を借りて感謝の上、お礼申し上げます。

卒後10年 同期会 医学科 19期生

2010年2月27日(土) / 琵琶湖ホテル



またお会いしましょう



済生会滋賀県病院 病理診断科

竹村 しづき

まずは同期会の開催にご尽力下さいました「湖医会」の皆様、幹事の北村君、松井君、ありがとうございました(私はこの作文が唯一の仕事になってしまっておめんなさい...).

随分おばさんになったしなあと多少気後れしつつ楽しみに参加させていただいた卒後10年同期会でした。とても懐かしいはずなのに、前日も一緒に講義を受けていたかのように自然に再会できて、ともに学んだ絆は凄いものですね。一緒に仕事をするところのある友達、会えそうなのに会えない友達、全く違う地域で頑張っている友達、いろいろな道をそれぞれのスタイルで歩み、様々な領域で活躍しているみんなの姿はとても頼もしく輝いていました。

あっという間に時間が過ぎ、現実に戻り学生時代を思い出しては少し切なくなっている私ですが、次の機会を楽しみにこれから研鑽を積んでいきたいと思います。

今回会えなかったみなさんも次回はお会いできますように。みんな元気で幸せに頑張っていこうね!



看護学科3期生が母校を巣立って10年が経ちました。
2月6日(土)・がんこ京都駅ビル店で16名の出席者で開催されました。
「5年同期会」から「たった5年」の短い月日のように思われますが、
3期生の皆さんは、公私ともに大きな変化があったようです・・・

卒後10年同期会

看護学科

3期生



10年目の再会

京都市立病院 看護師 力津 真帆

卒後10年の同期会、実は少し緊張しながら参加しました。10年ぶりに会う顔ぶれも多かったので、みんな変わっているんだろうなと思っていました。

参加したのは、結婚や育児などで現在、仕事は休んでいる人が多かったのですが、一番驚いたのは、みんな学生の頃と全く変わっていないことでした。10年の間にそれぞれ状況は変化しているはずなのに、みんな若々しく、いきいきとしている姿をみて、3交替勤務で日々仕事に追われている私は圧倒されてしまいました。

毎日忙しく過ごす中で、ふと学生時代を思い出すことがあります。純粹に看護と向き合い、大学生活を楽しんでいたなと懐かしく思います。今回同期会に参加し、その頃の気持ちを少しだけ取り戻せたように思います。

またそれぞれの日常に戻りましたが、次回の同期会で再開できることを楽しみにしています。永年の幹事のお二人、楽しい同期会をありがとうございました。



～がんこ京都駅ビル店にて～



今度はぜひみんなで!

滋賀県庁 保健師 野々村 享子



卒業してから10年。私としては、あっという間にすぎたと思う日々でしたが、久しぶりに会ったみんなの近況報告は、10年という決して短くない時間を改めて感じさせてくれました。就職・転職・結婚・妊娠・出産・子育てetcという人生において、大きな転機を体験してきただけあって、話を聞くたびに、感心したり、驚いたり。みんな頑張ってきたんだ、いろんなことがあったんだと励まされた思いでした。残念ながら参加できなかった人の近況も一緒に報告されていましたが、今度はぜひ本人の口から聞かせてもらいたいねとみんなで話していました。同期会という貴重な時間を共有しましょう。次回を楽しみにしています。

最後になりましたが、今回の同期会の開催にあたり、ご尽力いただきました幹事のお二人と「湖医会」事務局の皆様にお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



また、会える日を楽しみに・・・

卒後 5 年同期会

看護学科

8 期生



看護学科 8 期生が母校を巣立って 5 年が経ちました。恩師の先生を含め、18 名の出席者で開催されました。忙しい毎日を送るみなさんに、旧友と語り合う時間をお届けいたしました。5 年後の卒後 10 年同期会では、もっとたくさんの懐かしい顔にお会いできることを願っています。



～草津エストピアホテルにて～



「看護学科8期生卒後5年同期会」に参加して

滋賀医科大学医学部看護学科
臨床看護学講座(精神看護学)
看護学科長・教授

瀧川 薫



看護理論家ベナーの考えを持ち出すまでもなく、卒後5年も経過すると臨床や地域で勤めている看護者は自然とベテランとしての自信や風格が身に付いてくるものである。「看護学科8期生卒後5年同期会」に参加して、久方振りに対面した教え子らのなんと落ち着いた物腰と会話の中身の面白さに、まずは驚かされた。

公私ともに充実しているせいだろう。結婚に妊娠・出産という報告が驚くほど続く。生後5カ月の子どもさんを連れてこられた方や結納をおさめた帰りに立ち寄ったという方、まだまだ結婚は先とは言いつつも日々の生活に満足しきっている方々。

いやはや、若いということは素晴らしいし、前向きに生きる生命力のようなものを戴く良い機会となった。一方で、看護の難しさが今さらながらに解ってきたという言葉も聞かれた。なるほど、そういうものだろう。

宴の締めの言葉に、「看護は単に好きでやれる仕事ではない。かと言って、嫌々やられたら患者やその家族に迷惑がかかる。しんどくても、渋々でいいから日々の仕事の中に自らを支える何か目標や手だてを見つけつつ頑張りたい」と話したのは、まさしく彼女らとのしばしの触れ合いから得られた実感である。「教員冥利」というのは、正にこういう機会に感じるものなのだろう。



「卒後5年同期会に参加して」



小野市市民福祉部健康課

坂本 友里

2010年3月20日、看護学科8期生卒後5年同期会が開かれました。

今回の同期会の連絡をもらった時は、卒業してもう5年も経ってしまったのかと月日が経つ早さを実感し、必死に走ってきたこれまでの5年を思い起こしました。

迎えた同期会当日。まさに5年ぶり…という仲間もいましたが、すぐに学生時代に戻ったような安心感で、楽しく過ごすことができました。恩師の先生方を含め近況報告では、看護師、助産師としてリーダー業務や新人教育を担っている人、保健師として地域で活躍している人、大学院に進学して日々勉強を重ねている人、結婚・出産を経験し家庭を守っている人…皆それぞれの道で一生懸命頑張っているということに勇気とやる気をいただきました。

私はといえば、2年間看護師として病院で働いた後、市保健師となり丸3年が経ちました。大きな事業を任せられるようになり、やりがいや充実感を感じる反面、困難なことにぶつかり悩むこともあります。そのような時こそ、大学時代を共に頑張ってきた仲間と語り合えることは、とても大きな励みになります。

卒後10年同期会では、さらに多くの仲間が集まり、たくさん語り合えることを期待しています。

最後になりましたが、お忙しい中ご参加くださいました今本先生、瀧川先生、企画や連絡調整等お世話になりました「湖医会」事務局のみなさん、幹事さん本当にありがとうございました。

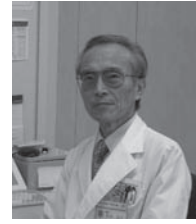


また、5年後お会いしましょう！

「湖医会」会員の皆様へ

滋賀県健康福祉部医務業務課医療福祉推進室
医師確保支援センター 顧問

松田 昌之



滋賀医科大学は今春第 30 期卒業生を送り出しました。
今や本学の卒業生、「湖医会」会員の皆様は全国各地で活躍しておられ、第 1 期生の卒業時から関わってきた教職員の一人としてたいへんうれしく思っています。滋賀県には滋賀医大病院を含めて 12 の臨床研修病院があり、教育に熱心な指導医の先生方がおられ、皆様の先輩や後輩も中堅あるいは指導医として活躍しておられます。県医師会および県病院協会も初期臨床研修医を対象に研修会、激励会を毎年開催するなど県全体で臨床研修を支援し、研修医の皆さんを歓迎しています。県内には上記 12 病院を含めて 60 病院あり、特色を有する病院が少なくありません。

専門臨床研修においても都会の病院に何ら劣るところはありません。専門研修の一層の充実、高度医療の遂行、県民の地域医療のさらなる充実を求める声に応えるため、滋賀県医師確保支援センターでは滋賀県病院協会とともに県内の病院に勤務していただける医師を募集しています。

日本は人口が減少に向かいはじめましたが、滋賀県は人口が増加している数少ない地域の一つであり、子供の人口比率は 15%で全国 2 位と高く、県民所得は 6 位と豊かな県です。県外で活躍中の先生方で滋賀での病院勤務をお考えの方はぜひ下記までご連絡いただくか、ホームページをご覧ください。

今すぐではなくとも何年か先に、という方も歓迎いたします。

滋賀県医師確保支援センター

担当: 副参事 城野達也 / 主幹 谷英知 / 顧問 松田昌之

電話: 077-528-3638 ファックス: 077-528-4859

メールアドレス: eh00070@pref.shiga.lg.jp

ホームページ:

http://www.pref.shiga.jp/e/imuyakumu/ishikakuho/center_top/kakuhocenter.html

(「滋賀県」「医師」「支援」で検索)

「滋賀ドクターBANKのご紹介」

社団法人 滋賀県病院協会 会長

富永 芳徳

滋賀医科大学「湖医会」会員の皆様には、明日の日本の医療を担う医療人の育成や地域医療の充実のため、日夜ご尽力賜っておりますことを心から感謝申し上げます。

さて、滋賀県内病院の医師確保の一つとして、社団法人滋賀県病院協会では、「滋賀ドクター BANK」を設置しているところであります。

この「滋賀ドクター BANK」は、滋賀県内病院への勤務（常勤・非常勤を問いません。）を希望される医師の皆様へ、県内病院の求人情報提供を通じ、病院探しをお手伝いさせていただこうとするものです。

この度、当協会では「滋賀ドクター BANK」事業を、より多くの皆様へ知っていただき、ご利用いただくため、ホームページサイトの充実と機能の強化を図りました。

求人・求職共に滋賀ドクター BANK への登録が必要ですが、求人については、現在 47 病院から常勤・非常勤勤務を合わせて 196 名の求人登録がされております。

求職については、①現在県外の病院等に勤務されておられる医師の方で、滋賀へ I・U ターンをお考えの方、②結婚・子育て等のため離職されておられる女性医師、定年等による退職（予定）の医師で、県内病院への復職をお考えの方、③医学生、研修生の方で県内病院勤務に関心をお持ちの方、④その他、県内病院勤務をお考えの医師の方々を広く募集しております。

県外でご活躍中の先生方で、近々あるいは将来滋賀県内の病院へ勤務をお考えの方は、是非「滋賀ドクター BANK」にご登録をお待ちしております。

また、皆様のお知り合いで、滋賀県内病院勤務に関心をお持ちの医師がおられましたら、当協会へご連絡をいただきますと共に、「滋賀ドクター BANK」をご紹介いただきますようお願い申し上げます。

滋賀県の地域医療を支えていただくため、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

交流懇談会を終えて



この企画は「湖医会」がサポートしています・・・

看護学科生の進路の参考になればと企画された「卒業生と在校生」の貴重な『交流の場』。3回生が主体となり、2月13日(土)に交流懇談会が行われました。今年は、いろんな分野で活躍する1期生から12期生と幅広くたくさんの先輩達が参加してくれました。「看護学科の輪」が広がっています。その輪の様子を紹介します!



長浜市立七郷小学校 養護教諭
細江 香織(看1期生)

気がつけば卒業して12年が過ぎ大学とは疎遠になっていましたが、今回このような機会を頂き久しぶりに医大を訪ねることができました。

1期生として入学した私たちは、モデルとなる先輩がなく、特に就職や国試の前は、どのように活動し勉強すればよいのかとても不安だったことを思い出します。同期と支え合い、先生方にたくさん助けていただきました。おかげで、無事に国試に受かり就職できましたが、早い段階から、卒業生の生の声を聞く機会は大切だと感じていましたので、私たちが卒業後、卒業生との交流会が開かれ、現在も続いていることを嬉しく思います。

交流会に参加して、早くから進路を考え日々実習に励んでいる学生さんや、様々な環境で働いている卒業生の話は刺激になりました。最近仕事にマンネリ化を感じていた私も、自分から学びを求めて積極的に行動しなければと思いました。

看護学を学んだ仲間の活躍する場がどんどん広がっていると感じます。学生の皆さんには、ぜひ視野を広げて将来を考えてほしいと思います。

交流会懇談会に参加して



東近江市八日市保健センター
北村 景子(看8期生)

私は現在、保健師として働いています。

今回交流懇談会に参加しようと思った理由は、昨年、私の働く市では保健師の採用募集がありましたが、残念ながら就職して下さる方がおらず、もっと学生さんに保健師の仕事をPRしなければ、と思ったからです。

懇談会では「保健師になりたい」と言って下さる学生さんに会えてとてもうれしかったです。また、たくさんの同期や先輩方も参加されており、私自身もとても勉強になりました。

学生さんはこれから卒業するまで色々と考え悩まれるとは思いますが、一生でこんなにゆっくりと悩んで考える時間が持てることはそんなになので、一生懸命に悩んで自分なりの答えを見つけたいです。解決する糸口の一つとして今回の懇談会で聞いたことが参考になれば幸いです。

私としては、保健師に興味を持ってくれる学生さんが一人でも多くいてくれればうれしいです。私の市では男性の保健師もいますので、ぜひ男性の方も進路の選択肢として考えていただければと思います。

今回、交流懇談会に参加する機会をいただきありがとうございました。

交流会懇談会を通して 平岡 祥子 (看3期生)

交流懇談会には看護師や保健師をはじめ、さまざまな職種の卒業生が参加してくださいました。卒業されて1年目の12期生の方から1期生の方までたくさんの卒業生に集まっていただき、大変貴重なお話を聞くことができました。

私はまだ進路について深く考えていなくて、これからのことをただ漠然としか考えていなかったため、卒業生の方に国家試験や就職活動についてのアドバイスや看護職として働くことのやりがいや厳しさを聞くことができ、今後自分がどのような道に進んでいけばよいのかを考えるにあたってとても参考となりました。また、講演だけでなく茶話会もあり、和やかな雰囲気、質問したいことを気軽に聞くこ

とことができました。先輩方も私たちのために一生懸命答えてくださいました。その姿勢にとっても感動しました。

交流懇談会係として、いろいろと準備をしましたが、開催当日までどのようなものか全く想像がつかず不安も多かったのですが、お忙しい中交流懇談会に参加くださった卒業生の方々、協力してくださった先生の方々、「湖医会」の方々のおかげでとても有意義な会となりました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。





ご案内

第12回

関東支部会のご案内

- 1、日時:8月21日(土) 午後6時30分
- 2、開場:品川プリンスホテル「品川大飯店」
tel 03-3440-1111
- 3、講演:厚地記念放射線医学研究所 USAマコゾウ センター長
植松 稔氏(医2期生)
演題「私のセレンディピティとがんの放射線治療」
終了後懇親会
- 4、研修医・看護学科卒業生・学生は無料

ご案内

同期会のお知らせ

- ★卒後20年同期会医学科10期生
2011年3月19日(土)開催
- ★卒後10年同期会医学科20期生
2011年3月12日(土)開催



ご寄付のお礼

医学科9期生有志/医学科19期生有志
看護学科2期生有志

同期会の余剰金を「湖医会」奨学金と一部を
事務局の備品等の購入に充当させていただきました。

ありがとうございました。厚くお礼申し上げます。



第62回「西医体・西コメ等」競技日程予定

- ☆硬式テニス(愛知県--東山公園スポーツセンターなど) 8/3~8/10
- ☆ソフトテニス(兵庫県--神鍋ローンテニスコート) 8/4~8/6
- ☆サッカー(大阪府--堺ナショナルトレーニングセンター) 8/2~8/7
- ☆準硬式野球(愛知県--碧南市運動公園・豊田市運動公園など) ... 8/1~8/7
- ☆バスケットボール(愛知県--岡崎中央総合公園・安城体育館) ... 8/4~8/6
- ☆バレーボール(愛知県--大府市民体育館・西尾市総合体育館) ... 8/3~8/5
- ☆バドミントン(愛知県--スカイホール豊田) 8/10~8/13
- ☆弓道(愛知県民体育館) 8/3~8/5
- ☆柔道(福井県立武道館) 8/7~8/8
- ☆卓球(愛知県--ウイングアリーナ刈谷) 8/8~8/10
- ☆ボート(静岡県--浜松市天竜ボート場) 8/6~8/8
- ☆陸上(愛知県--瑞穂運動競技場) 8/7~8/8
- ☆ヨット(静岡県--浜松市三ヶ日青年の家) 8/10~8/16
- ☆水泳(愛知県--日本ガイシホール) 8/6~8/8
- ☆合気道(富山県--アルビス小杉総合体育センター) 8/7~8/8
- ☆空手道(福井県立体育館) 8/6~8/8
- ☆剣道(愛知県武道館) 8/7~8/8
- ☆ハンドボール(岐阜メモリアルセンター) 8/3~8/5
- ☆ラグビー(兵庫県--神邊競技場) 8/1~8/11
- ☆ゴルフ(静岡県--浜松市葛城ゴルフ倶楽部) 8/5~8/6

注意:この競技日程は2010年5月27日現在のものです!

訃報

但馬直子先生(本会特別会員、滋賀医大地域生活看護学講座准教授)が5月20日ご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。



ご協賛
ありがとうございます